第23回　会社説明会

FFG第一次中期経営計画

FFG

あなたのいちばんに。

ふくおかフィナンシャルグループ

2007年2月28日

福岡銀行　熊本ファミリー銀行

本日の構成

PartⅠ：ＦＦＧの経営戦略

ふくおかフィナンシャルグループの概要・・・Ｐ３
ＦＦＧのビジネスモデル・・・・・・・・・・・Ｐ４
ＦＦＧのグループ運営・・・・・・・・・・・・Ｐ５
グループ営業戦略・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６
グループリスク管理・・・・・・・・・・・・・Ｐ７
事務プロセス・ITシステムの共通化・・・・・Ｐ８
ＦＦＧの広域展開戦略・・・・・・・・・・・・Ｐ９
ＦＦＧの成長シナリオ・・・・・・・・・・・・Ｐ１０
経営統合のシナジー効果・・・・・・・・・・・Ｐ１１
ＦＦＧの資本政策・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１２
ＦＦＧの配当政策・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１３
グループ求心力・一体感の醸成・・・・・・・Ｐ１４
ＦＦＧ第一次中期経営計画・・・・・・・・・・Ｐ１５

PartⅡ：ＦＦＧ「第一次中期経営計画」

目標とする経営指標・・・・・・・・・・・・・Ｐ１９
経営戦略概要・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２０
グループ営業戦略・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２１
グループ統合戦略・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２２
計数計画①・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２３
計数計画②・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２４

PartⅢ：福岡銀行「中期経営計画２００７」

中計２００７の概要・・・・・・・・・・・・・Ｐ２６
中計２００６の進捗状況・・・・・・・・・・・Ｐ２７
中計２００７の営業戦略・・・・・・・・・・・Ｐ２８
主要計数計画・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２９
非金利収益計画・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３０

PartⅣ：熊本ファミリー銀行「中期経営計画２００７」

中計２００７の概要・・・・・・・・・・・・・Ｐ３２
中計２００７の営業戦略・・・・・・・・・・・Ｐ３３
主要計数計画・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３４
非金利収益計画・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３５
不良債権処理と信用コスト　・・・・・・・・Ｐ３６

Part I

ふくおかフィナンシャルグループ
経営戦略

ふくおかフィナンシャルグループの概要

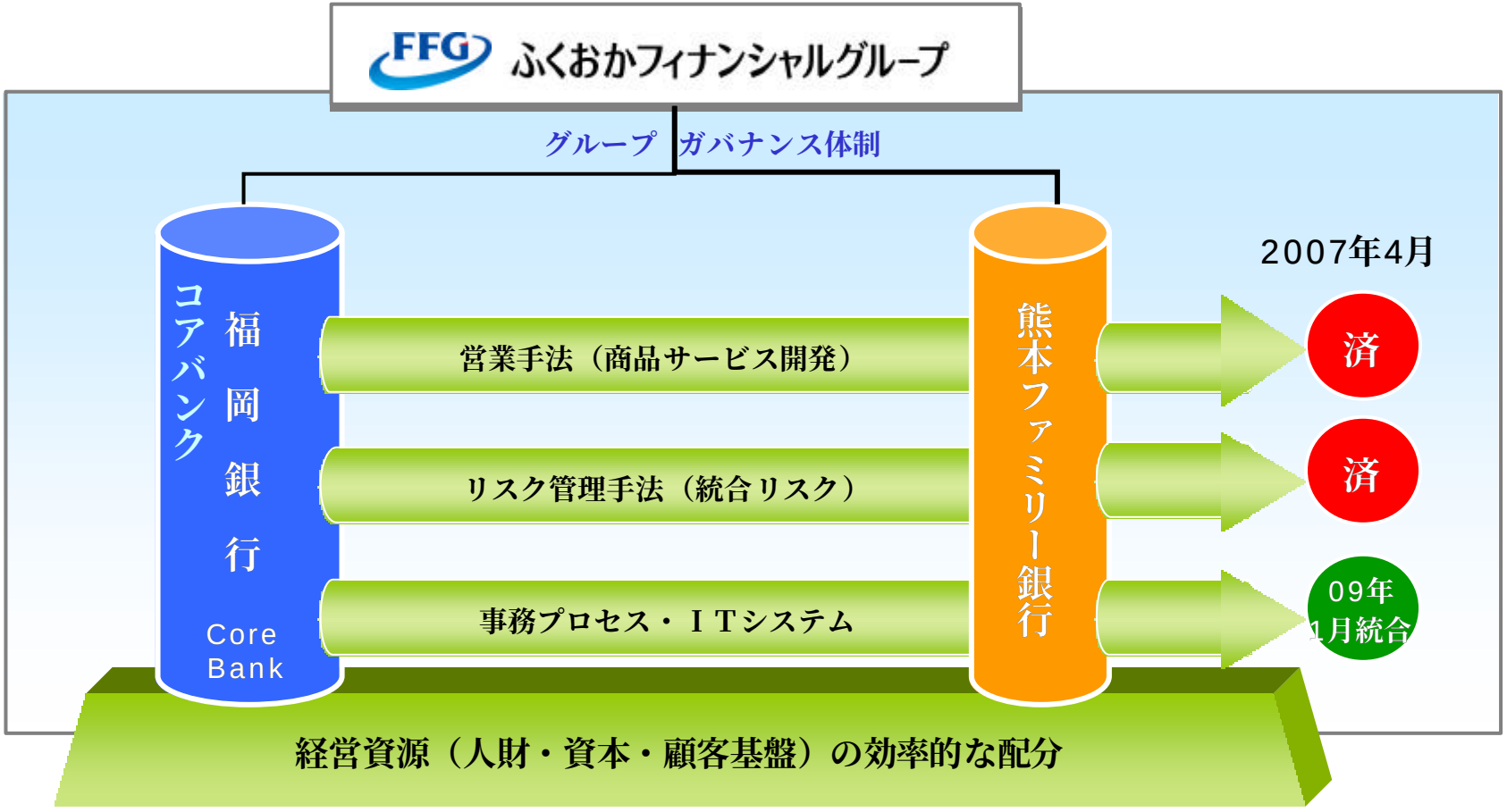
- 規模・損益水準で地域金融機関第４位の金融グループ
- 総資産９.４兆円、貸出金６.３兆円、預金８.２兆円

（単位：億円）		福岡銀行	熊本ﾌｧﾐﾘｰ銀行	FFG	地銀順位
資産・負債	総資産	80,148	13,444	93,593	4
	貸出金	53,261	9,996	63,257	4
	有価証券	20,528	2,334	22,862	4
	預金+ＮＣＤ	69,409	12,461	81,869	4
損益	コア業務純益	584	138	722	4
	当期純利益	302	50	352	3
従業員数		3,919人	1,109人	5,028人	-
営業拠点数		170店	77店	247店	-
株式時価総額		7,340	276	7,616	4

資産・負債は06/12末連結ベース、損益はFY05単体ベース、従業員・営業店舗は06/9末、時価総額は2007年2月23日終値

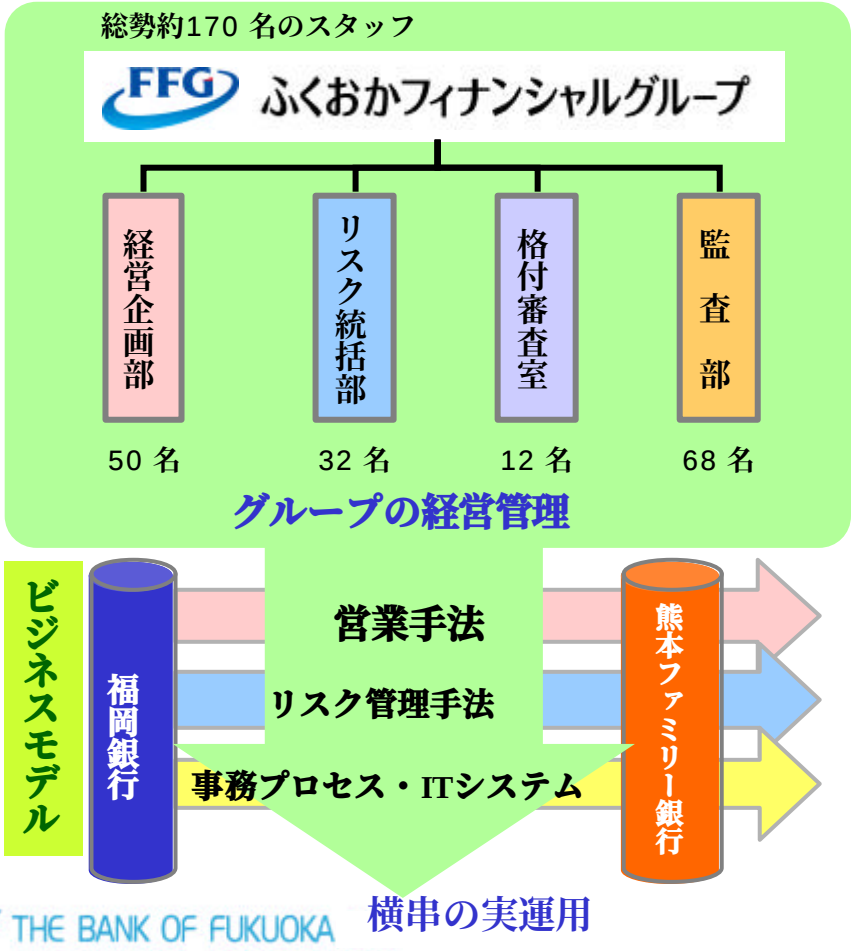
ＦＦＧのビジネスモデル

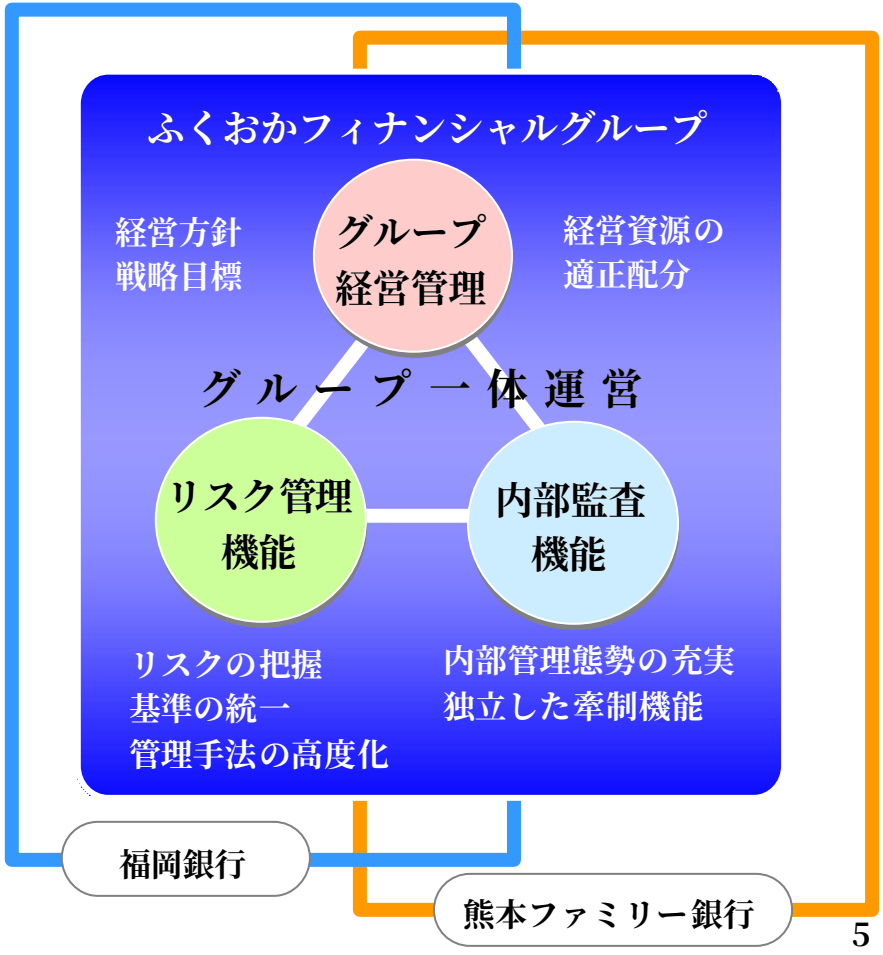
- 営業手法、リスク管理手法、事務プロセス・ITシステムを統合
- 熊本ファミリー銀行：営業手法や審査手法をターゲット顧客に合わせカスタマイズ



ＦＦＧのグループ運営

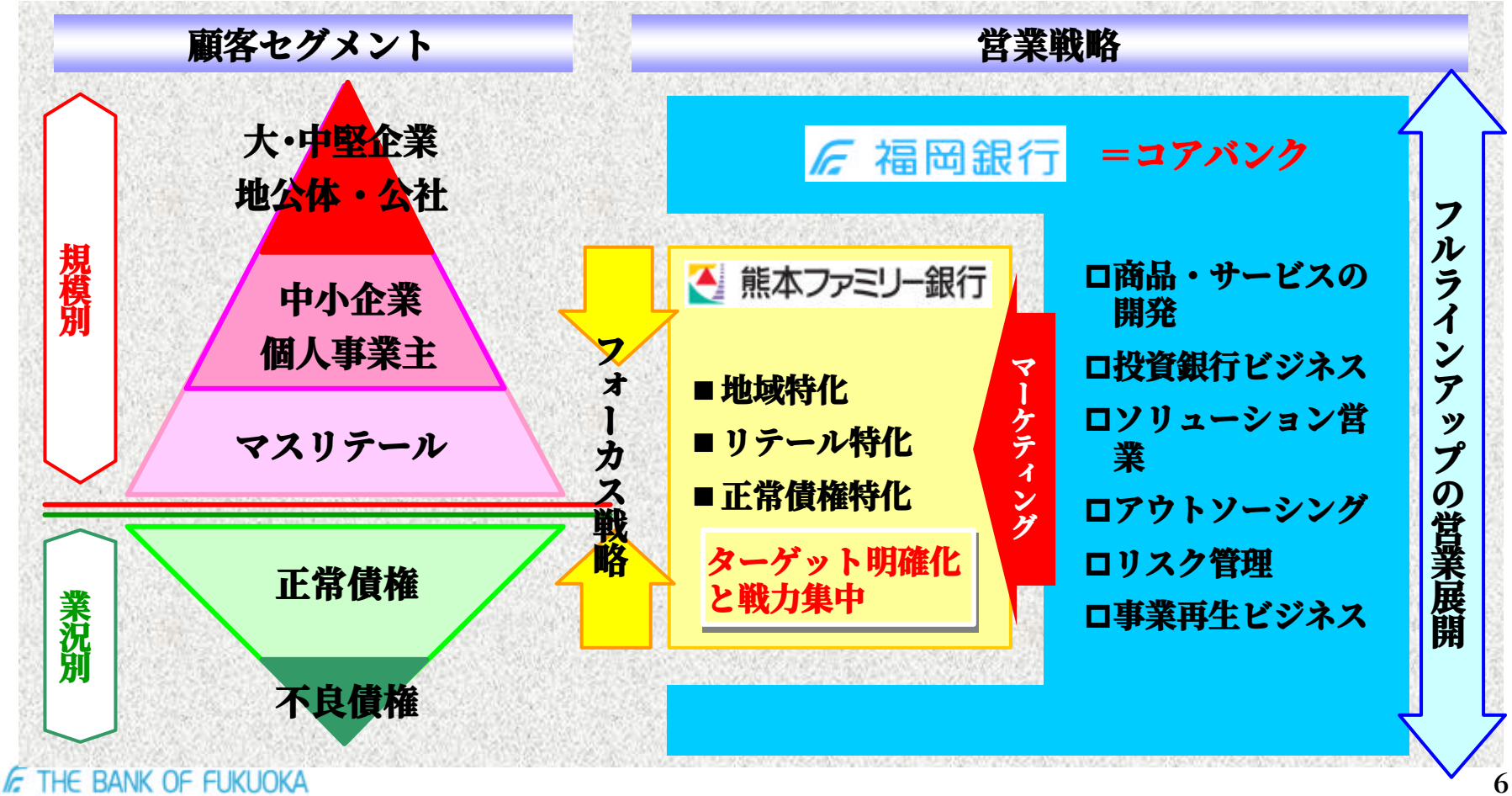
- ■ リスク管理・内部監査機能をFFGに集約
- ■ グループ内の債務者格付をFFGが一元的に審査





グループ営業戦略

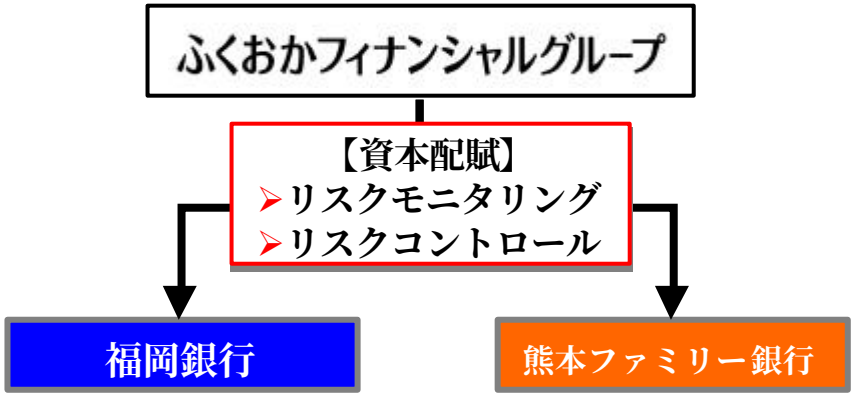
- 福岡銀行：フルラインアップの営業展開
- 熊ファミ： 地域・リテールへのフォーカス戦略

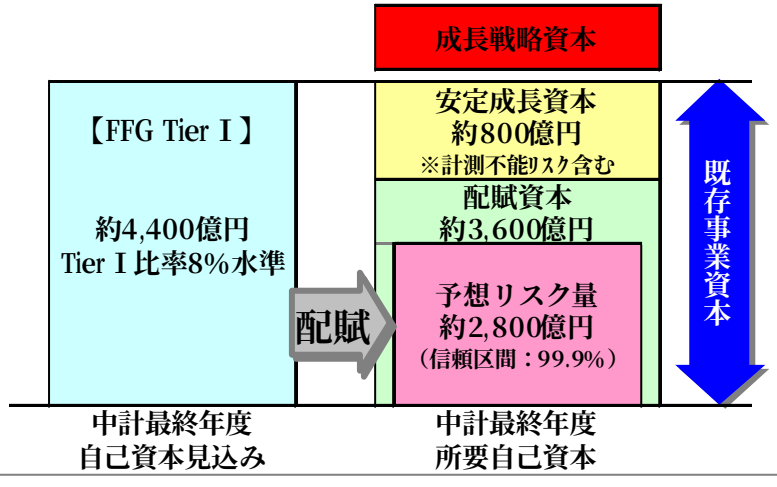


グループリスク管理

- ■ グループ統合リスク管理によるグループ収益力の極大化
- ■ 先進的なリスク計測手法の導入

■ グループ統合リスク管理





対応スケジュール バーゼルⅡ	採用手法実施開始時期（予定）		2007年度 上期	2007年度 下期	2008年度 上期	2008年度 下期	2009年度 上期	2009年度 下期
	信用リスク	福岡銀行	基礎的内部格付手法					
		熊本ファミリー銀行	標準的手法				基礎的内部格付手法	
		FFG		基礎的内部格付手法（段階適用）			基礎的内部格付手法	
	オペリスク	福岡銀行	粗利益配分手法					
		熊本ファミリー銀行	基礎的手法				粗利益配分手法	
		FFG		基礎的手法			粗利益配分手法	

FFG中計ゴール

事務プロセス・ＩＴシステムの共通化

- ２００９年1月：「広銀との共同システム」及び「福銀独自システム」に熊ファミシステムを統合
- 高スペックのシステムによりビジネスモデルの共有、集中処理による事務効率化を実現

広島銀行との共同利用型基幹システム

＜広銀センター＞

共同システム（本番ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ）
勘定系、情報系、
対外接続、融資支援　等

＜福銀センター＞

共同システム（ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟｺﾝﾋﾟｭｰﾀ）

独自システム
人事、事務集中系 等

熊ﾌｧﾐﾈｯﾄﾜｰｸ網　　福銀ﾈｯﾄﾜｰｸ網

ＳＢＫからの移行

営業店端末
ＡＴＭ
＜熊ﾌｧﾐ　営業店＞

営業店端末
ＡＴＭ
＜福銀　営業店＞

事務プロセスを福銀スタイルに一本化

《ビジネスモデルの共有》

- 両行の強みを生かした戦略オプションの多様化（営業管理、リスク管理、事務戦略）
- マーケティング・ＡＬＭ機能の向上
- スピーディーな商品提供

《営業戦力強化・事務品質向上》

- 営業店事務の効率化・機能向上
- 審査ワークフロー対応、営業支援・管理システム（情報・稟議手続き・ＣＲＭ）
- ローン事務のＢＰＲ（スピード審査、審査精度向上、集中管理）

《事務効率化・コスト削減》

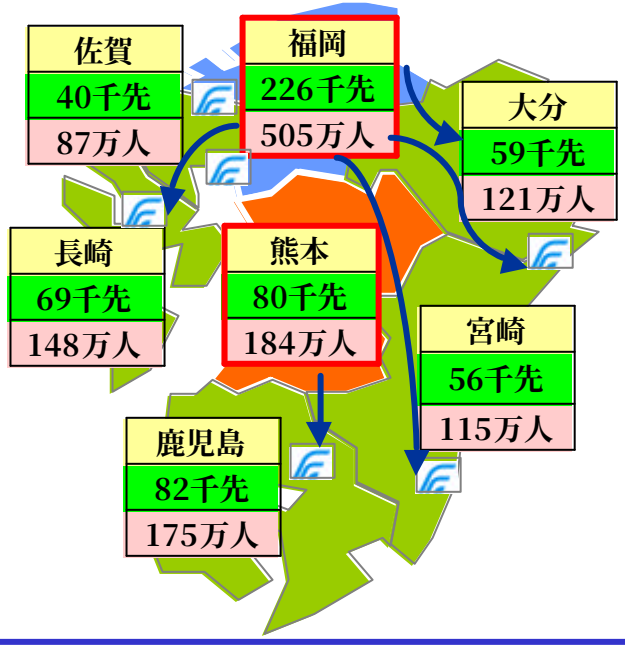
- 事務集中処理（隣県の地の利を活かす）
  - 為替・振込・手形小切手の集中処理、約定書類の集中保管、諸届事務
- 共同アウトソーシング
  - ＡＴＭ運用・監視業務、カード発行、メール便運行
- Ｊ－ＳＯＸ対応の共通化

ＦＦＧの広域展開戦略

- 福岡・熊本両県の事業所数・人口は、九州全体の５０％超
- 熊本では『面の展開』、その他の県では『線の展開』により顧客基盤拡大

九州の事業所数・人口

	九州全体	福岡＋熊本
事業所数	615千先	307千先（50%）
人口	1,335万人	689万人（52%）



営業基盤の拡大

熊本県

面の展開：フォーカス戦略＋コアバンク展開

熊本ファミリー銀行
リテール・正常債権

福岡銀行
大・中堅企業

その他の県

線の展開：事業法人中心　福岡銀行

戦略の柔軟性

外部要因

- ✓地域金融機関の統合の動き
- ✓競争激化（メガバンク、郵貯、異業種の参入）
- ✓道州制

ＦＦＧの成長シナリオ

- 第一次中計でビジネスモデルの確立と福岡・熊本両県でのプレゼンス拡大
- 広域展開型地域金融グループの実現へ

第一次中期経営計画

（０６年度予想）

ＦＦＧ発足	
コア業務純益	７０４億円
2行合算当期利益	▲２３０億円
ＲＯＥ	－
総資産	9.3兆円
不良債権比率	3.5％
福岡県内貸出ｼｪｱ	２７％
熊本県内貸出ｼｪｱ	２２％

時価総額　7,000億円

- 統合シナジーの早期実現
- グループ一体経営体制の構築
- 人財・企業カルチャーの融和

シナジー効果の最大化

2年後の到達点目標	
コア業務純益	８８０億円
連結当期利益	４２０億円
ＲＯＥ	８％
総資産	１０兆円
不良債権比率	１％台
福岡県内貸出ｼｪｱ	３０％
熊本県内貸出ｼｪｱ	２８％

時価総額　8,000億円

- 福岡・熊本両県での営業基盤確立
- コアバンク中心型のグループ営業ビジネスモデルの構築
- 面と線の展開による柔軟な広域戦略

FFGの将来像（５年以内）

コア業務純益	1,200億円以上
連結当期利益	６００億円以上
ＲＯＥ	１０％以上
総資産	１２兆円以上
不良債権比率	１％未満

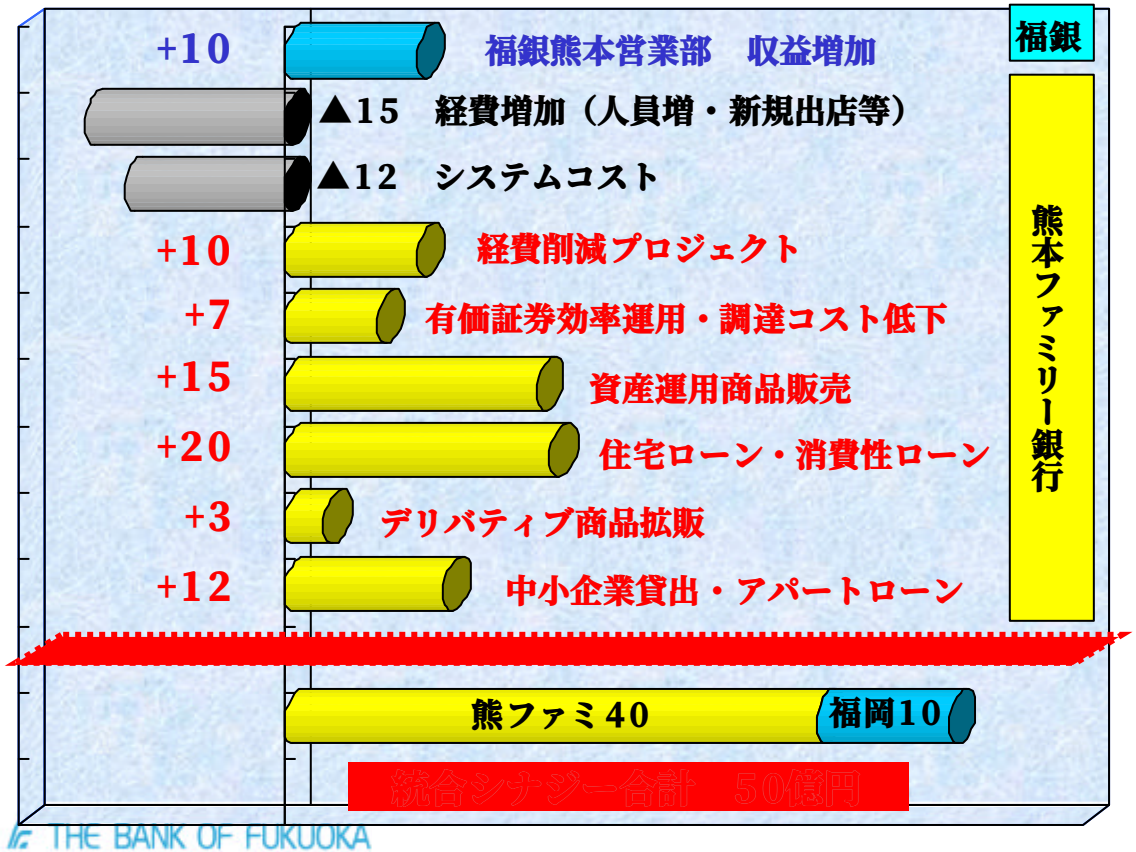
時価総額　１兆円

広域営業基盤を展開する
地域金融グループへ

経営統合のシナジー効果

- ２年間に実現する収益シナジーは50億円（福銀10億円＋熊ファミ40億円）
- ＩＴ統合メリット、信用コスト極小化、営業戦力強化も実現

中計2年間の収益シナジー



その他シナジー

ＩＴ統合によるメリット

- 単独での構築だと25億円かかる機能が8億円のランニングコストで調達可能

（個人ローン自動審査
融資支援システム
MCIF・統合DB　等）

実質+17億円のメリット

信用コストの極小化

- 基準統一に伴う追加信用コストを一括計上
- ＦＦＧによる信用リスク管理と格付下方遷移防止

信用コスト巡航速度100bp→30bpへ

営業人員強化

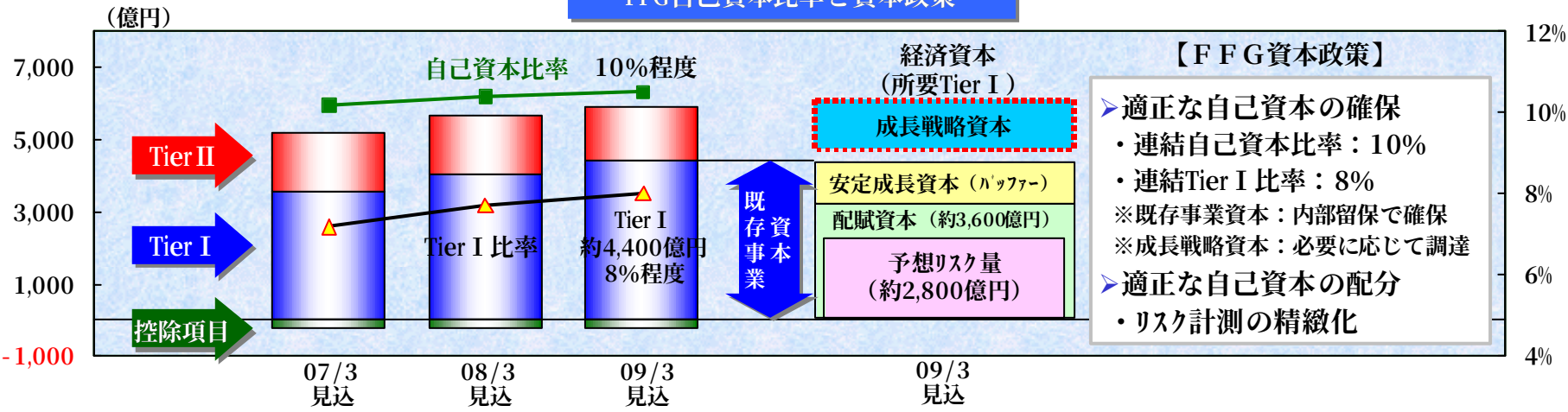
- 本部企画部門の福銀集約、事務共通化・集中部門共同化で生じた余剰本部人員を営業現場に再配置

営業戦力+100名

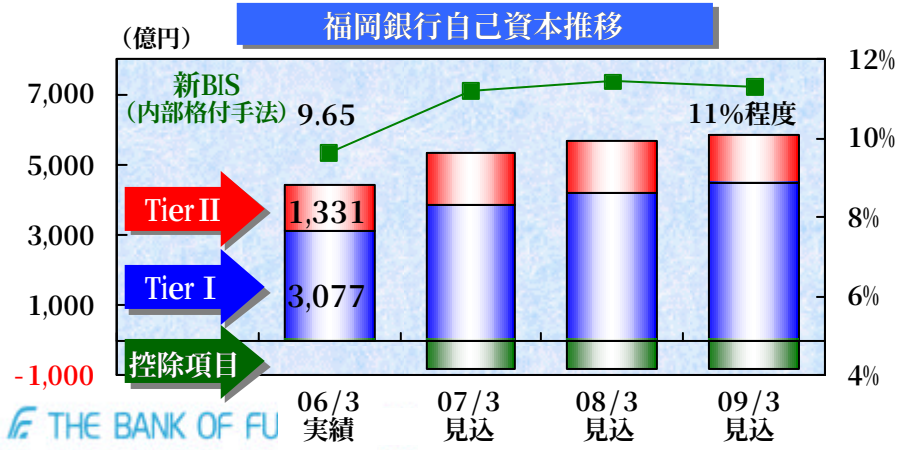
ＦＦＧの資本政策

- ■ グループとして適正な自己資本を確保（自己資本比率：10%、Tier Ⅰ比率8%）
- ■ リスク計測の精緻化の過程で、グループ間で適正な資本を配分

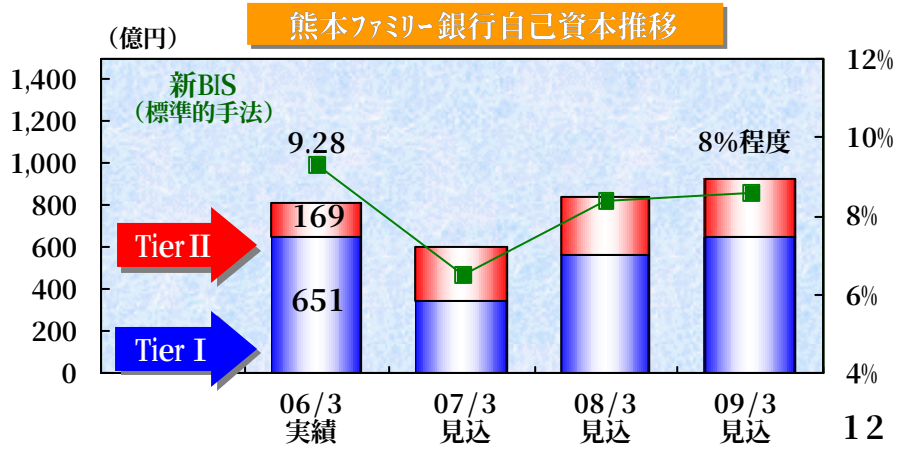
FFG自己資本比率と資本政策



福岡銀行自己資本推移



熊本ﾌｧﾐﾘｰ銀行自己資本推移



ＦＦＧの配当政策

■ 福岡銀行の業績連動配当テーブルを維持　（1株当たり配当金の維持・増加）
■ のれん（６００億円程度）の償却期間は１０年　（年間償却額は年間６０億円程度）

FFGの新中計期間における配当方針

【業績連動配当の実施】

- 福岡銀行の業績連動配当（テーブル）を維持
- FFG連結当期純利益の水準に応じて1株あたり配当金を段階的に設定
- 「配当テーブル」をベースに配当金を支払う

【配当テーブル】

FFG連結当期純利益水準	配当金目安
～250億円以下	7円～
250億円～300億円以下	8円～
300億円～350億円以下	9円～
350億円～400億円以下	10円～
400億円～450億円以下	11円～
450億円～	12円～

※ FFG連結当期純利益はのれん償却後の利益

※ 事業展開やリスク環境等により変更することがあります

FFG配当方針の考え方

【配当政策の考え方】

・グループ配当性向目安＝20%程度

$$\text{グループ配当性向} = \frac{\text{FFGの配当総額}}{\text{FFG連結当期純利益（のれん償却後）}}$$

・１株あたり配当金目安の維持・増加

配当金目安		福岡銀行現行中計 当期純利益	福岡銀行現行中計 配当金目安	FFG新中計 当期純利益	FFG新中計 配当金目安
金利横ばい	07年度	320億円	9円	345億円	9円
	08年度	350億円	10円	420億円	11円
金利上昇	07年度	340億円	9円	360億円	10円
	08年度	400億円	11円	460億円	12円

■ のれん試算＝約600億円

※熊ﾌｧﾐ銀の業績下方修正により前回公表時約500億円から増加

10年償却 → 年間償却額＝約60億円

（民間優先株 約95億円 ＋ 旧公的優先株 約315億円 ＋ ※福銀株価 830円 × 熊ﾌｧﾐ普通株 123百万株 × 移転比率 0.217 － 熊ﾌｧﾐ 時価純資産）

※福銀株価＝株式移転比率公表日前5営業日の株価平均

※のれんの額は、会計処理の方法、熊ﾌｧﾐ銀純資産額等により変更となる可能性がある

グループ求心力・一体化の醸成

- 経営理念の統一（共通の価値観）、共通のブランド展開によるグループ求心力強化
- 企業カルチャーの構築とブランド価値向上

共通の価値観

共通のブランド

意識改革

グループ経営理念

ふくおかフィナンシャルグループは、
高い感受性と失敗を恐れない行動力を持ち、
未来志向で高品質を追求し、
人々の最良な選択を後押しする、
すべてのステークホルダーに対し
価値創造を提供する金融グループを目指します

グループブランド

Core Value

いちばん身近な
いちばん頼れる
いちばん先を行く
あなたのいちばんに。

人財交流

- 熊ファミ から福銀に40～50名の出向派遣
- スキル・ノウハウの移転
- 人財の融合

ＦＦＧカルチャー構築・ブランド価値向上

ＦＦＧ第一次中期経営計画①（計数計画）

- FFG第一次中期経営計画の期間は2年間（2007年4月～2009年3月）
- 目標とする経営指標は当期純利益420億円、ROE8%、不良債権比率1%台

福岡銀行

指　標	金利横這	金利上昇
コア業務純益	730億円	790億円
当期純利益	380億円	415億円
不良債権比率	1%台	
OHR	50%	48%
中小企業等向貸出金残高	4兆円	
福岡県内貸出金シェア	30%	

熊本ファミリー

指　標	金利横這	金利上昇
コア業務純益	150億円	160億円
当期純利益	90億円	100億円
不良債権比率	3%台	
OHR	55%	53%
中小企業等向貸出金残高	1兆1,000億円	
預金残高	1兆3,000億円	
資産運用商品販売額	年間1,000億円	

目標指標

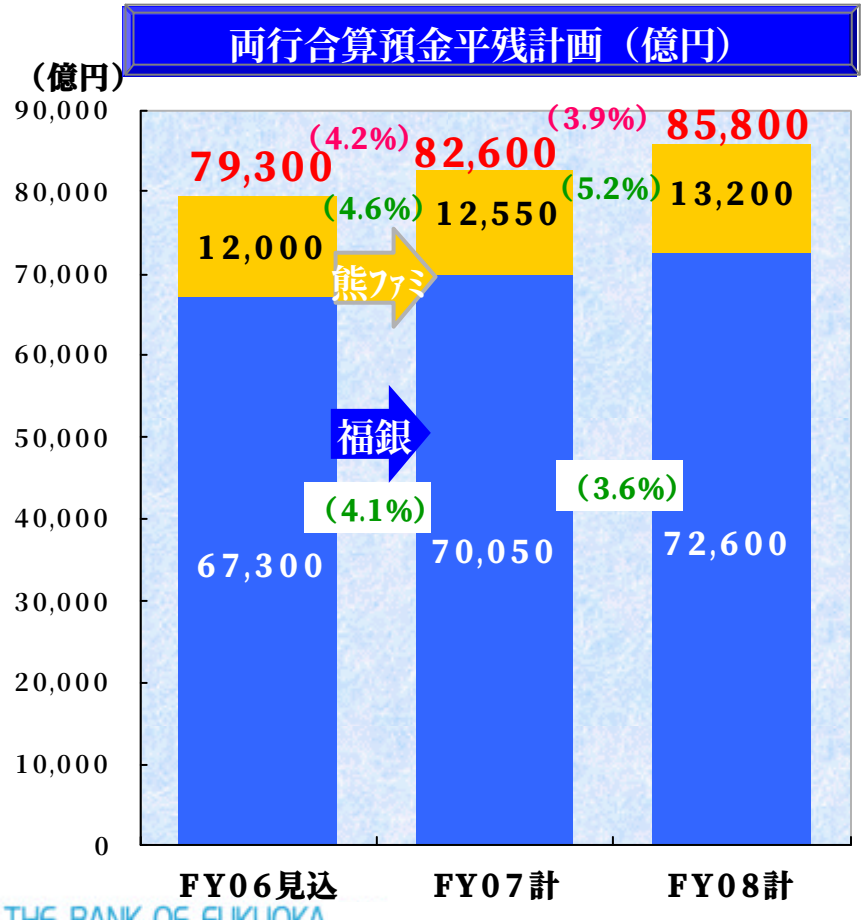
		金利横這シナリオ	金利上昇シナリオ
目標指標	連結当期純利益	420億円	460億円
	連結不良債権比率	1%台	
	連結ROE	8%	8.5%
その他の指標	連結自己資本比率	10%	
	連結Tier I 比率	8%	

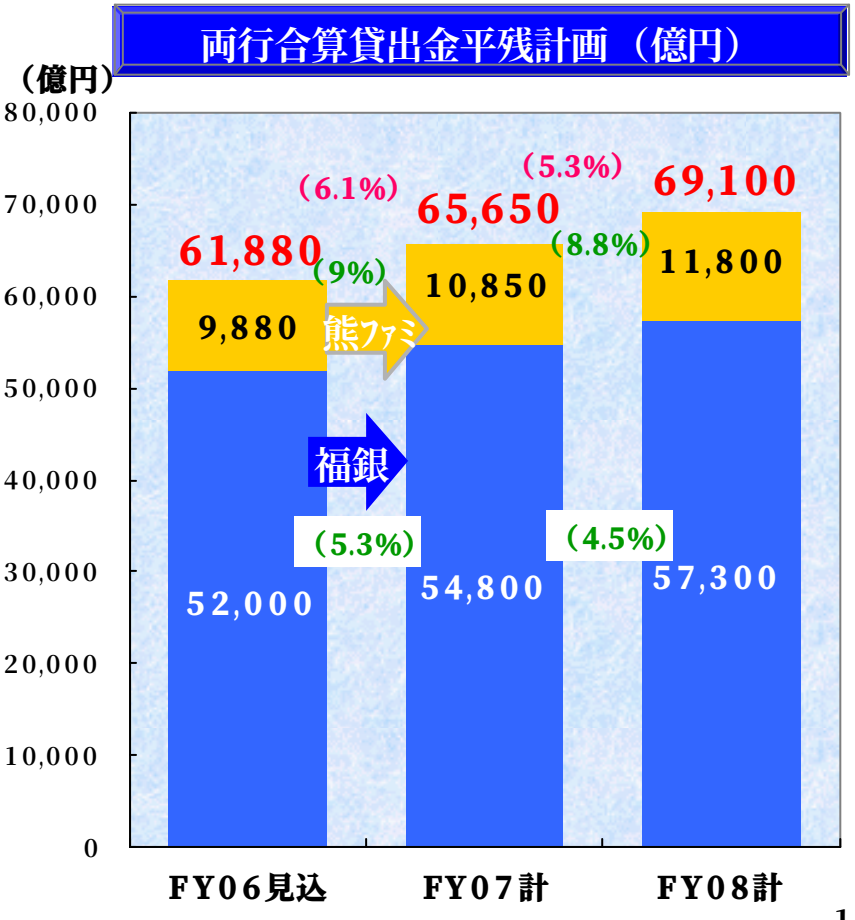
【金利横這い】：O/N＝0.50%、10年SWAP＝2.0%

【金利上昇】：O/N＝0.5%～1%、10年SWAP＝2.2%～2.6%

ＦＦＧ第一次中期経営計画②（業容推移）

- FFGグループ預金：4%成長 平残6,500億円増加
- FFGグループ貸出金：5.7%成長 平残7,150億円増加





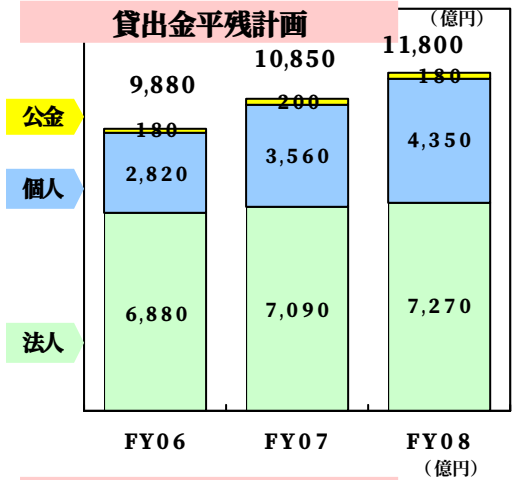
ＦＦＧ第一次中期経営計画③（熊ファミ）

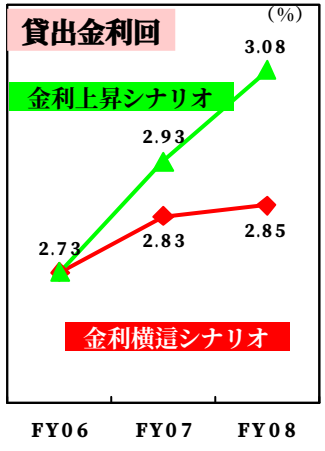
- 最終年度目標　コア業務純益１５０億円　当期純利益９０億円（金利横這時）
- 貸出金平残1兆1,800億円、預金平残1兆3,200億円

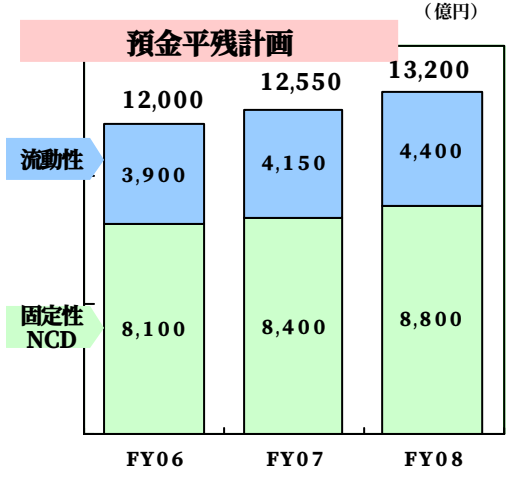
熊本ファミリー銀行

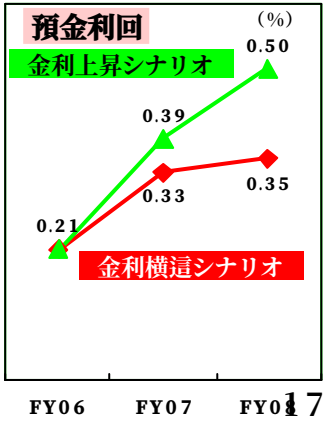
中計2007損益計画

	金利横這い			金利上昇	
	06年度見込	07年度計画	08年度計画	07年度計画	08年度計画
業務粗利益	264	306	330	311	339
資金利益	258	280	296	285	305
役務取引等利益	17	24	30	24	30
特定取引利益	0	0	0	0	0
その他業務利益	▲11	2	4	2	4
債券売買損益	▲12	0	0	0	0
経費	▲172	▲181	▲179	▲181	▲179
一般貸倒引当金	▲70	0	0	0	0
業務純益	22	125	150	130	160
コア業務純益	104	125	150	130	160
臨時損益等	▲620	▲55	▲60	▲55	▲60
うち不良債権処理額	▲607	▲50	▲30	▲50	▲30
経常利益	▲598	70	90	75	100
当期純利益	▲550	70	90	75	100
信用コスト	▲677	▲50	▲30	▲50	▲30









Part Ⅱ

ふくおかフィナンシャルグループ

第一次中期経営計画

目標とする経営指標

- FFG第一次中期経営計画の期間は2年間（2007年4月～2009年3月）
- 目標とする経営指標は当期純利益420億円、ROE8%、不良債権比率1%台

計画名称：「ＦＦＧ第一次中期経営計画」
計画期間：2007年4月～2009年3月
（平成19年4月～平成21年3月）

福岡銀行　熊本ファミリー銀行

（単位：億円）

FFG連結	金利横這い FY2007計画	金利横這い FY2008計画	金利上昇 FY2007計画	金利上昇 FY2008計画
経常収益	2,410	2,600	2,480	2,810
うち資金運用収益	1,835	1,975	1,900	2,185
経常費用	1,810	1,890	1,860	2,030
うち資金調達費用	475	525	520	665
営業経費	975	975	975	975
うちのれん代償却	60	60	60	60
信用コスト	125	105	125	105
経常利益	**600**	**710**	**620**	**780**
当期純利益	**345**	**420**	**360**	**460**

目標指標

		金利横這シナリオ	金利上昇シナリオ
目標指標	連結当期純利益	420億円	460億円
目標指標	連結不良債権比率	1%台	
目標指標	連結ＲＯＥ	8%	8.5%
その他の指標	連結自己資本比率	10%	
その他の指標	連結Tier Ⅰ比率	8%	

【金利横這い】：O/N＝0.50%、10年SWAP＝2.0%

【金利上昇】：O/N＝0.5%～1%、10年SWAP＝2.2%～2.6%

経営戦略概要

- FFGの中期経営計画は、経営環境の変化に応じた戦略設定
- 5つの基本戦略と縦串のクオリティ戦略により戦略展開

経営環境

外部環境	市場金利上昇
	九州経済の流動化 道州制議論
	法改正への対応（ﾊﾞｰｾﾞﾙ、J-SOX、金検ﾏﾆｭｱﾙ、金商法等）
競合環境	郵政民営化・政府系金融機関統合民営化
	消費者金融業界動向
	メガバンク攻勢
顧客動向	運用・調達ﾆｰｽﾞ多様化
	団塊世代・少子高齢化
	消費動向の変化
内部環境	経営統合・ｱﾗｲｱﾝｽ
	新経営理念・ブランド

FFG

基本方針

FFG第一次中期経営計画

- ✧ 統合シナジー効果の早期実現
- ✧ グループ一体の経営管理体制を構築
- ✧ 両行の人財・企業カルチャーの融和

戦略体系 / 施策・戦術の概要

戦略体系		施策・戦術の概要
営業戦略	法人営業戦略 個人営業戦略	・両行の強みを活かした営業戦略を展開 福岡銀行） フルラインアップの法人営業を展開 個人営業のビジネスモデル構築 熊本ﾌｧﾐﾘｰ）熊本県内リテール部門に特化したフォーカス戦略
	市場営業戦略	・グループ有価証券ポートフォリオ構築 ・収益源の多様化と収益の安定性を実現
ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ戦略		・グループリスク管理態勢構築、バーゼルⅡ対応 ・不良債権処理と事業再生の同時実現
事務戦略		・両行事務スキームの統一 ・グループ事務効率化の実現（共同アウトソーシング等）
ＩＴ戦略		・競争力あるグループIT基盤の構築 ・システム統合の実現
人財戦略		・グループ人員の戦略的配置 ・グループ人財育成、営業戦力増強
クオリティ戦略		・グループ一体感の醸成（グループ企業理念・ブランド） ・グループコンプライアンス体制の構築

グループ営業戦略

- 福岡銀行は福岡県のシェアアップと九州他県の営業領域拡大
- 熊本ファミリー銀行は県内リテールに特化したフォーカス戦略を展開

グループ統合戦略

- 第一次中計期間中に経営統合体制を構築（事務･システム統合09年1月予定）
- 経営理念･ブランド構築によりグループ一体感の醸成を図る

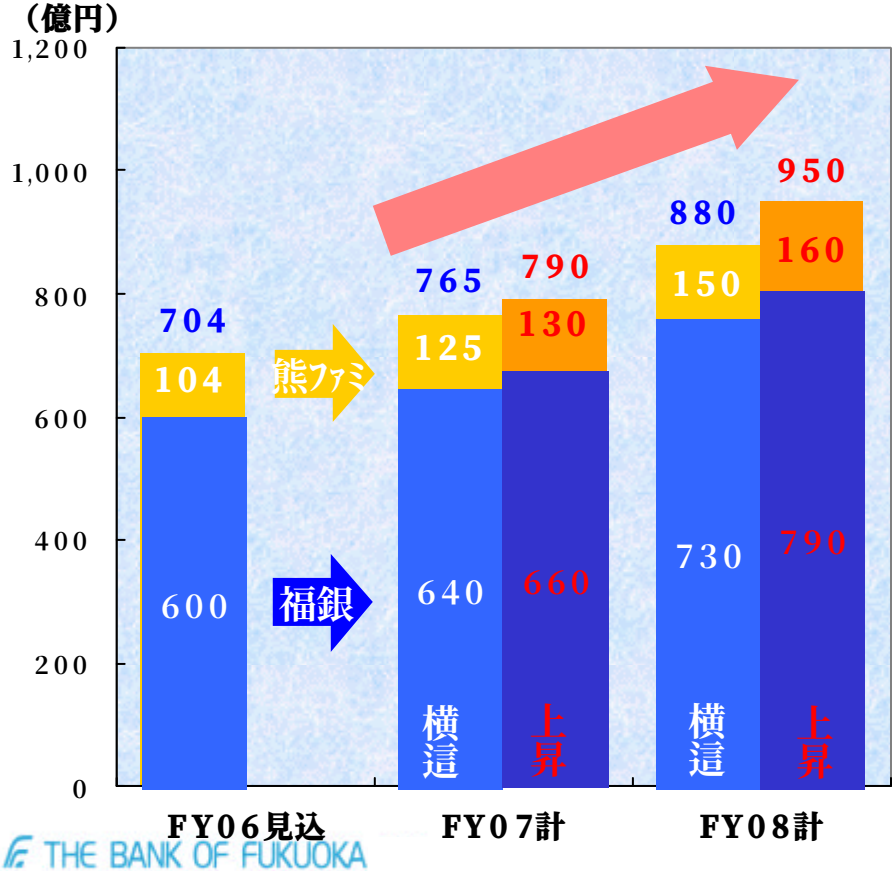
戦略体系		FY06 下期	FY07 上期	FY07 下期	FY08 上期	FY08 下期
リスクマネジメント戦略	■グループリスク管理態勢構築 ■不良債権処理･事業再生同時実現		リスク管理委員会によるグループモニタリング			
		熊ファミ：バーゼルⅡ対応				09年3月基礎的内部格付手法導入予定
		熊ファミ：審査体制改革PT				
事務戦略	■グループ事務効率化の実現 ■両行事務スキームの統一	両行事務の統一				09年1月 事務･システム統合
		非オンライン事務統合07年10月				
		熊ファミ：戦略リスースプロジェクト				
ＩＴ戦略	■グループ事務効率化の実現 ■両行事務スキームの統一	両行システムの統一				
		要件定義	開発・テスト		研修･ﾘﾊｰｻﾙ	
人財戦略	■グループ人員の戦略的配置 ■人財育成・営業戦力増強	両行営業戦力増強（熊ファミ本部人員削減）				
		合同研修・熊ファミ→福銀へ研修派遣				
クオリティ戦略	■グループ一体感の醸成 ■コンプライアンス態勢構築	経営理念・グループブランドの浸透				
		共通のコンプライアンスプログラム実施・モニタリング				

経営統合の体制整備完成

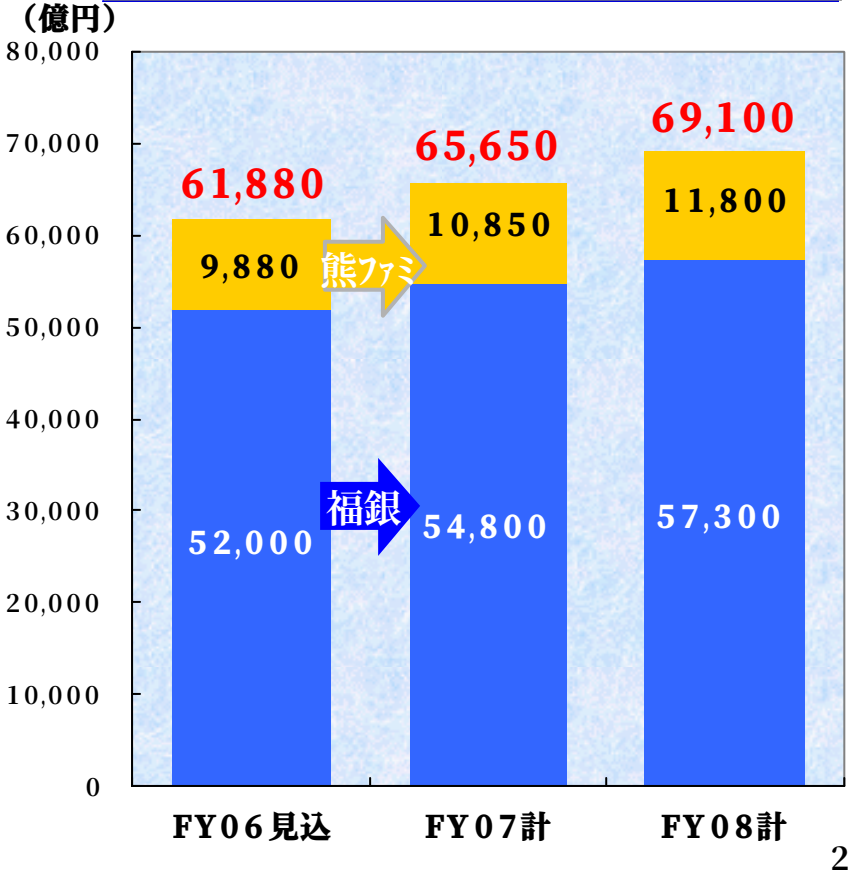
計数計画①

- 第一次中計の両行合算コア業務純益は880億円、金利上昇で950億円を展望
- 両行合算の貸出金平残計画は、6兆9,100億円

両行合算コア業務純益計画（億円）



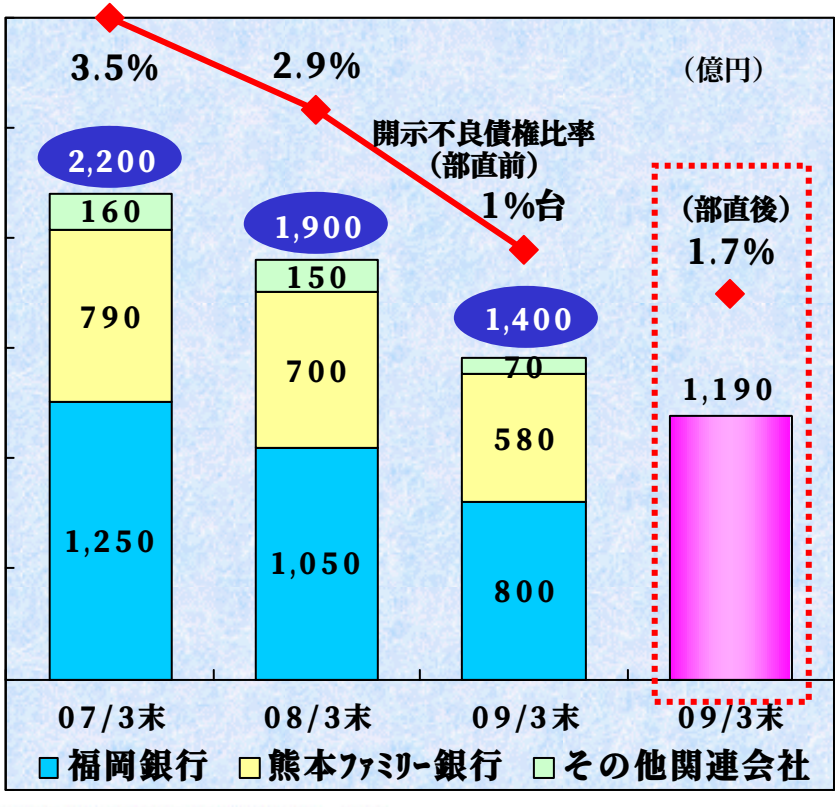
両行合算貸出金平残計画（億円）



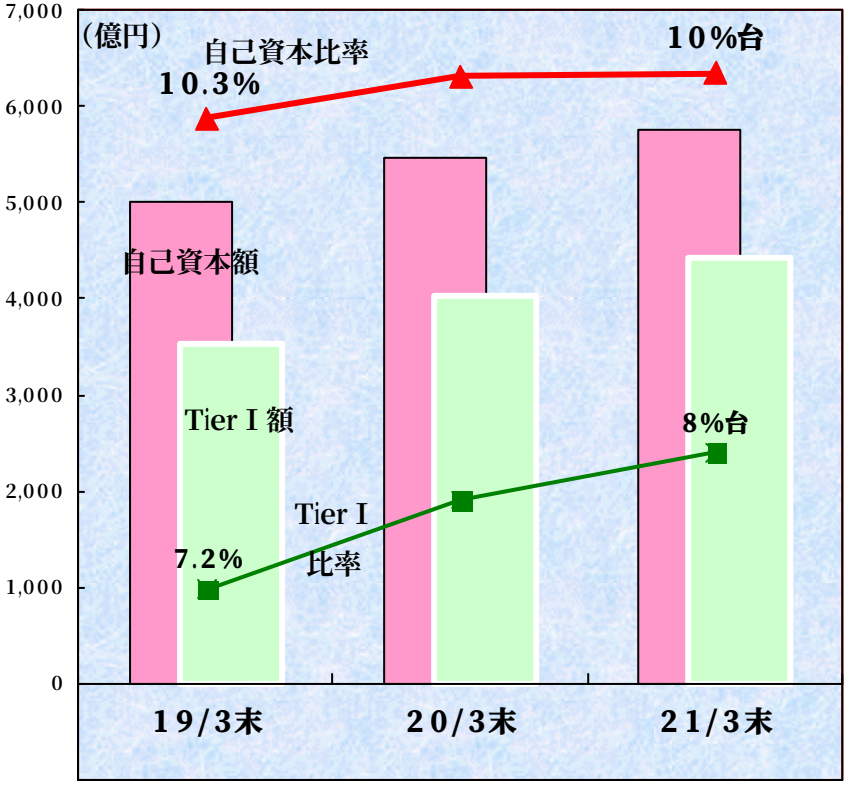
計数計画②

- 連結不良債権比率：07/3末見込3.5%→09/3末1%台を目標
- 自己資本比率10%台、ＴｉｅｒＩ比率8%台を確保

連結不良債権 （部直前）



自己資本比率・ＴｉｅｒＩ比率



PartIII

福岡銀行

中期経営計画２００７

中計2007の概要

- 現中計の基本方針「サービス品質の向上を顧客基盤の拡大へ繋げる」を踏襲。
- 最終年度（2008年度）末に福岡県内貸出シェア30%を目指す。

中期経営計画2007（期間：2007年4月～2009年3月）

目指す銀行像

「期待を超える銀行」

基本方針

「知と行動の総力展開」

目標指標

指　標	金利横這	金利上昇
コア業務純益	730億円	790億円
当期純利益	380億円	415億円
不良債権比率	1%台	
OHR	50%未満	48%
中小企業等向貸出金残高	4兆円	
福岡県内貸出金シェア	30%	

戦略施策体系

- 営業戦略 → 競争力ある商品・サービスの総合マーケティング展開
- ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ戦略 → リスクとリターンの統合コントロール体制の構築
- 事務戦略 → 利用者満足度を高める事務改革
- ＩＴ戦略 → 営業戦略を支えるＩＴ基盤の構築
- 人財戦略 → 人的資本の充実と戦略的配置
- クオリティ戦略 → 企業カルチャーの変革

中計2006の進捗状況

- 福岡県内貸出シェア：06/12月末 26.2%（06/3月末比＋0.7%）
- 中小企業等向貸出金：06/12月末 3.8兆円（06/3月末比＋1,400億円）

中計2006　最終年度の到達点目標

顧客基盤の拡大

- ✓ 県内貸出シェア　30%以上
- ✓ 総貸出金　8,000億円増強
- ✓ 中小企業等向け貸出金　４兆円突破

	中計2006目標		2006年度のラップ		
	最終年度到達点	3年間の増加目標	06/3末 実績	06/12末 実績	06/12末 06/3比増減
福岡県内貸出シェア	30.0%	＋4.5%	25.5%	26.2%	＋0.7%
県内貸出金残高	47,500	＋6,300	41,200	42,200	＋1,000
総貸出金末残	59,000	＋8,000	51,000	53,250	＋2,250
中小企業等向貸出金	40,000	＋2,900	37,100	38,500	＋1,400

2006年度　第３四半期業績

	公表計数	9ヶ月実績	進捗率
経常収益	1,670	1,298	77.7%
業務粗利益		963	
資金利益		781	
役務取引等利益		157	
特定取引利益		17	
その他業務利益		8	
経費		533	
一般貸倒引当金繰入額		-	
業務純益		430	
コア業務純益	**600**	**432**	**72.0%**
臨時損益		▲ 4	
経常利益	550	426	77.5%
当期純利益	**320**	**263**	**82.2%**
信用コスト	20	▲ 22	-

中計2007の営業戦略

■ 営業の「量」の強化（営業拠点・戦力）と「質」の強化（ソリューション営業・マーケティング営業）により、顧客基盤の拡大と深掘りを実現

全体営業戦略

店舗・チャネル戦略

- ブロック営業体制強化
  ブロック細分化・副支店長増員
- フルバンキング店舗増強
  18/4～11ヶ店、19/4～4ヶ店
- 店舗リニューアル
  3年間で建替20店・改修120店
- 営業戦力の増強
  18/3末～20/3末で250名増強

地区戦略

福岡県	■本部フロント部隊による機動的な地区集中攻略
九州他県	■九州営業本部による情報収集・トップセールス ■リソース積極投入
熊本営業部	■熊ファミの地元情報活用 ■大･中堅企業、公共公社

セグメント別営業戦略

法人営業戦略

フルラインアップの営業展開

ソリューション営業の新展開
- ■*事業再生ビジネスの展開*
- ■*アジアビジネスサポート*
- ■*投資銀行ビジネス強化*
- ■*不動産ソリューション*

マーケティング営業の強化
- ■*業種別営業推進*
- ■*リテール法人向けビジネスモデル*

個人営業戦略

ビジネスモデル構築

マーケティング営業の強化
- ■*顧客管理基準制定*
- ■*主力4商品のクロスセル*
- ■*CRMの高度化*

ソリューション営業の新展開
- ■*富裕層向けプライベートバンキング*

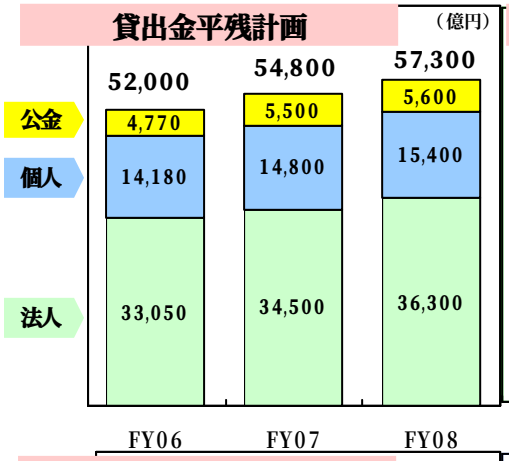
「顧客基盤の拡大」「中小企業・個人取引の大躍進」

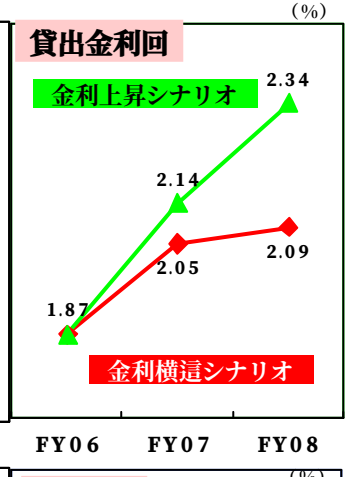
主要計数計画

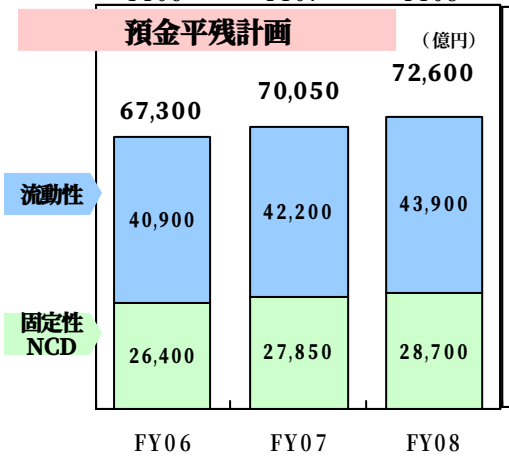
- 最終年度目標　コア業務純益730億円　当期純利益380億円（金利横這時）
- 貸出金平残5兆7,000億円、預金平残7兆2,000億円

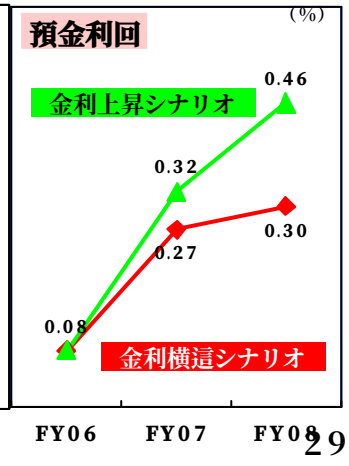
中計2007損益計画

	金利横這い			金利上昇	
	06年度見込	07年度計画	08年度計画	07年度計画	08年度計画
業務粗利益	1,293	1,343	1,438	1,363	1,498
資金利益	1,045	1,078	1,150	1,098	1,210
役務取引等利益	212	223	241	223	241
特定取引利益	24	28	30	28	30
その他業務利益	12	14	17	14	17
債券売買損益	▲3	▲2	▲2	▲2	▲2
経費	▲696	▲705	▲710	▲705	▲710
一般貸倒引当金	0	0	0	0	0
業務純益	597	638	728	658	788
コア業務純益	**600**	**640**	**730**	**660**	**790**
臨時損益等	▲43	▲65	▲70	▲65	▲70
うち不良債権処理額	▲20	▲60	▲60	▲60	▲60
経常利益	**554**	**573**	**658**	**593**	**718**
特別損益	▲14	▲15	▲15	▲15	▲15
当期純利益	**320**	**330**	**380**	**345**	**415**
信用コスト	▲20	▲60	▲60	▲60	▲60





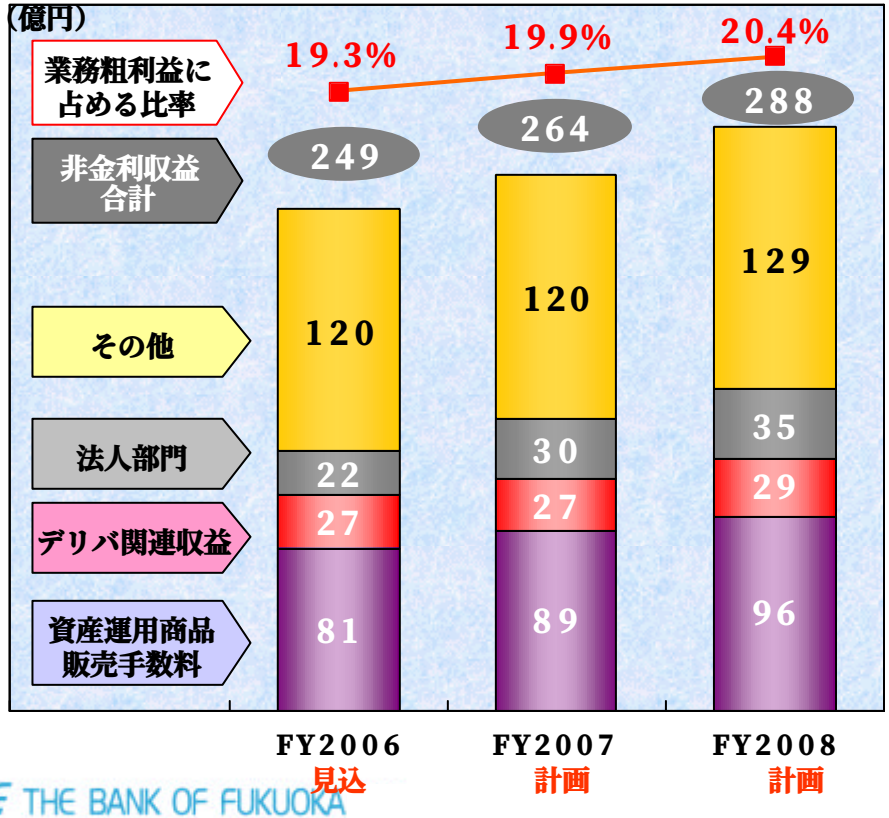




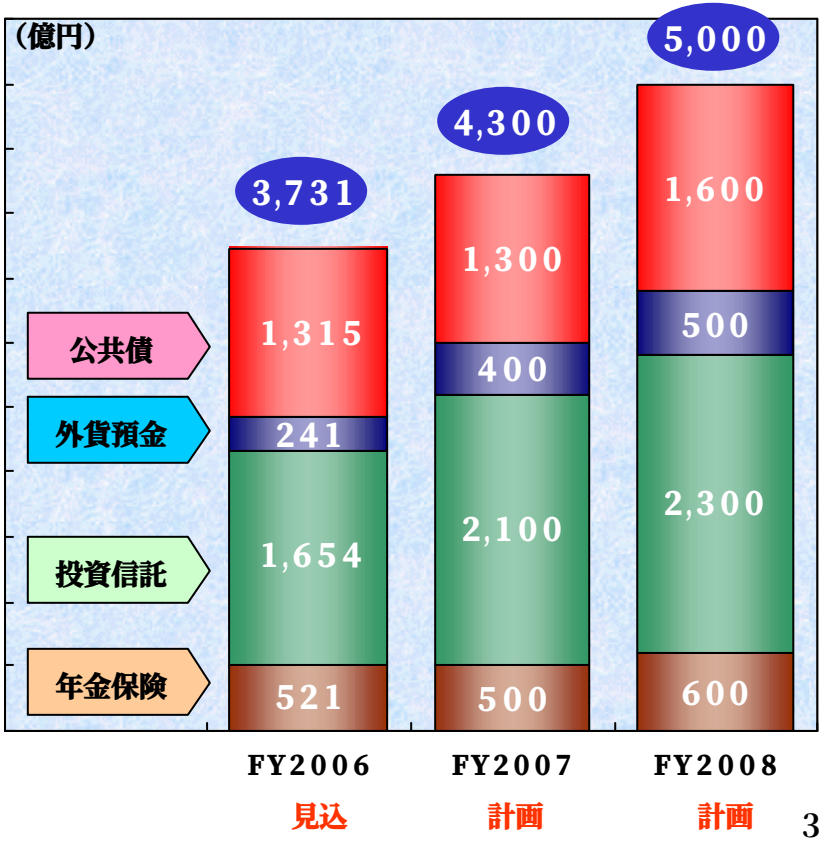
非金利収益計画

- 非金利収益計画　07年度：264億円　08年度：288億円
- 資産運用商品販売計画　07年度：4,300億円　08年度：5,000億円

非金利収益計画



資産運用商品販売額



PartⅣ

熊本ファミリー銀行
中期経営計画2007

中計2007の概要

■ 得意とする県内リテール分野にリソースを集中させるフォーカス戦略
■ リスク管理・事務・ＩＴ等の経営インフラの高度化を実現

中期経営計画2007（期間：2007年4月～2009年3月）

目指す銀行像

「地域になくてはならない銀行」

基本方針

「攻めの経営・規律ある経営」

目標指標

指　標	金利横這	金利上昇
コア業務純益	150億円	160億円
当期純利益	90億円	100億円
不良債権比率	3%台	
OHR	55%	53%
中小企業等向貸出金残高	1兆1,000億円	
預金残高	1兆3,000億円	
資産運用商品販売額	年間1,000億円	

戦略施策体系

- 営業戦略 → Face to Faceによるリテール特化型営業の展開
- ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ戦略 → リスクマネジメント体制の確立・高度化
- 事務戦略 → 事務の統一と効率化の追求
- ＩＴ戦略 → システム統合・競争力ある IT基盤の構築
- 人財戦略 → 人的資本の充実と戦略的配置
- クオリティ戦略 → 企業カルチャーの変革、コンプライアンス態勢強化

中計2007の営業戦略

熊本ファミリー銀行

■ ターゲット明確化とリソース集中、業務の効率化による「量的営業の強化」

■ ＦＦＧグループ力を活用し、営業スキル向上・取扱商品拡大等による「質的営業強化」を図り、熊本県内のリテール取引を拡大

営業基本戦略　Face to Faceによるリテール特化型営業の展開

◆フォーカス戦略

ターゲットの明確化

◆ 営業店はリテール取引への特化
- ・法人）リテール法人／アパートローン
- ・個人）住宅ローン／預金・資産運用商品

◆ 本部フロント、福岡銀行との棲分け
- ・大中堅企業、公共公社→福銀主導
- ・中小企業（Lｸﾗｽ）→熊ファミ本部主導

◆店・人の役割明確化 ◆営業戦力の強化

営業体制の再構築

◆ ブロック営業体制の導入
支店の連携を強化し、面での営業体制を構築

◆ セグメント別営業の導入
全員営業体制の構築と担当者の役割明確化

◆ 店舗新規出店拡大

◆ 本部をスリム化し営業戦力として配置

◆攻めの営業体制構築

営業店の業務改革

◆ 集配金等の非効率業務の見直し

◆ 店頭事務の効率化
業務の機械化・本部集中化

◆ 管理債権のサービサー委託

◆ 融資業務の改革
本部審査体制の見直し・営業店融資業務

◆顧客保護態勢の確立 ◆営業スキルの向上 ◆商品（武器）の拡充

商品拡充・スキルアップ

◆ 福銀商品との共通化
長期固定金利商品、デリバ商品、資産運用商品

◆ 福銀へのトレーニー派遣

◆ 研修体系の見直し

◆ スーパーバイザーの指導

◆ リスクマネージャー制度

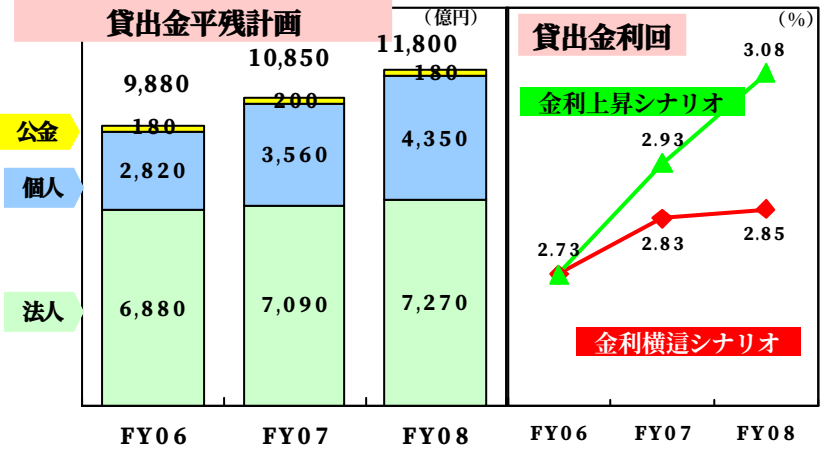
主要計数計画（再掲）

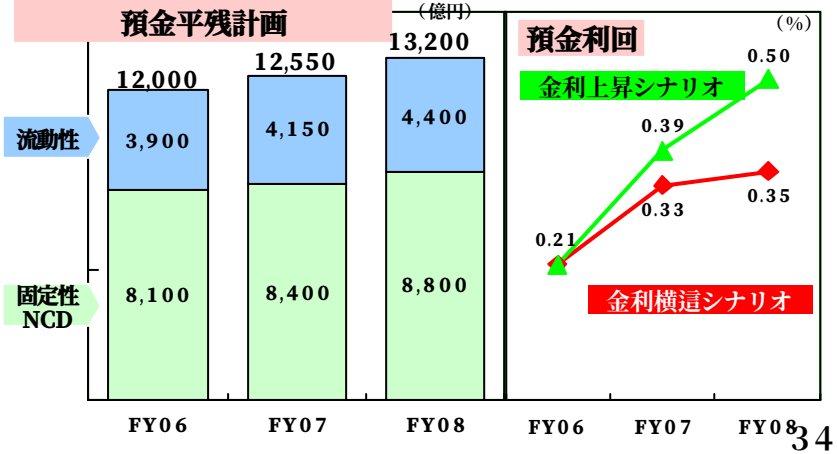
- 最終年度目標　コア業務純益150億円　当期純利益90億円（金利横這時）
- 貸出金平残1兆1,800億円、預金平残1兆3,200億円

中計2007損益計画

（億円）

	金利横這い			金利上昇	
	06年度見込	07年度計画	08年度計画	07年度計画	08年度計画
業務粗利益	264	306	330	311	339
資金利益	258	280	296	285	305
役務取引等利益	17	24	30	24	30
特定取引利益	0	0	0	0	0
その他業務利益	▲11	2	4	2	4
債券売買損益	▲12	0	0	0	0
経費	▲172	▲181	▲179	▲181	▲179
一般貸倒引当金	▲70	0	0	0	0
業務純益	22	125	150	130	160
コア業務純益	104	125	150	130	160
臨時損益等	▲620	▲55	▲60	▲55	▲60
うち不良債権処理額	▲607	▲50	▲30	▲50	▲30
経常利益	▲598	70	90	75	100
当期純利益	▲550	70	90	75	100
信用コスト	▲677	▲50	▲30	▲50	▲30

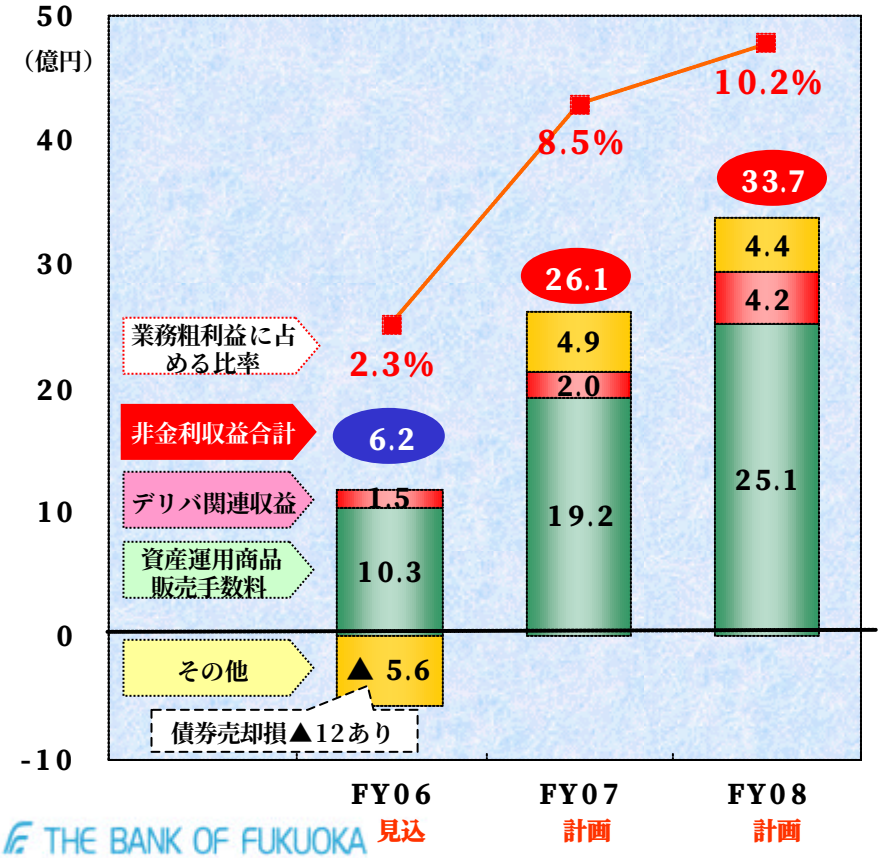




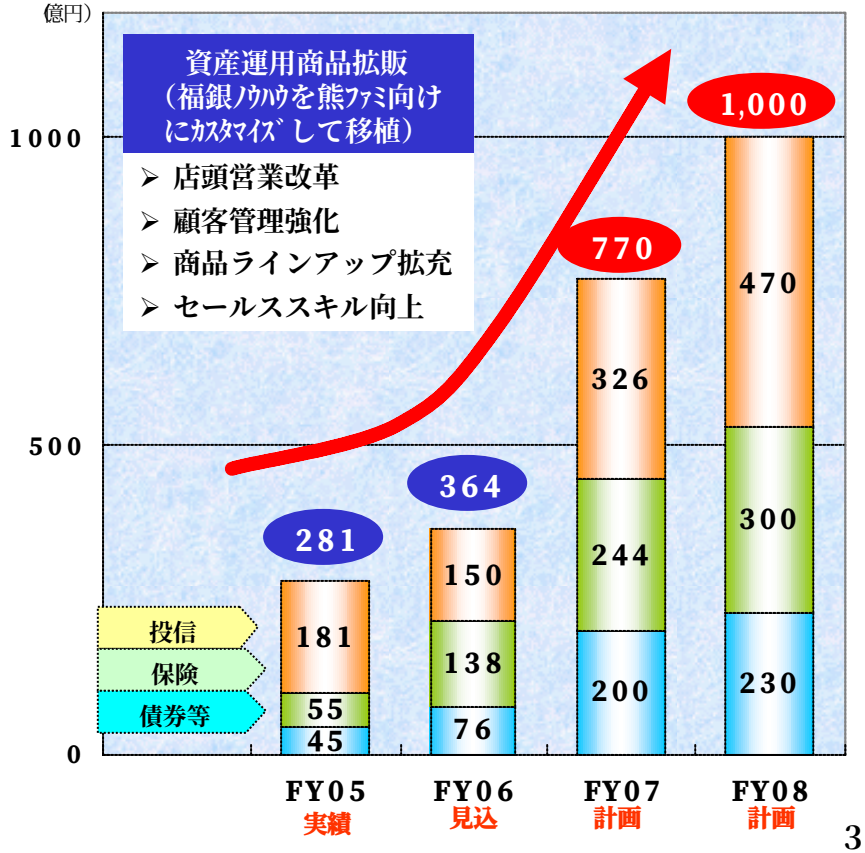
非金利収益計画

- 08年度非金利収益33.7億円（06年度見込比＋27.5億円）
- 資産運用商品販売額目標：　08年度 1,000億円

非金利収益計画



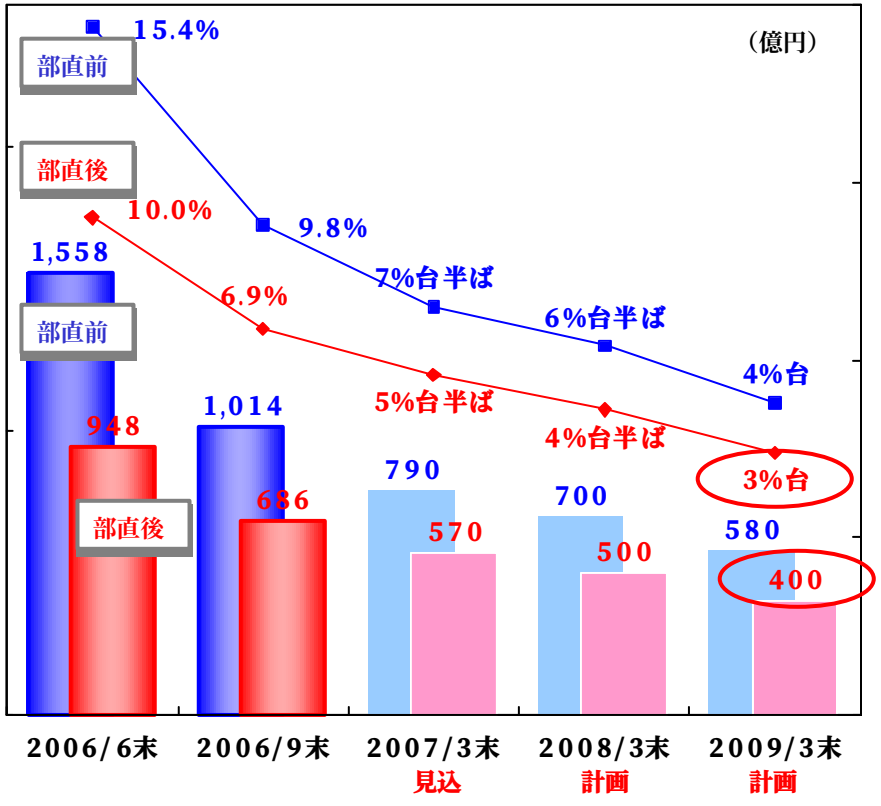
資産運用商品販売額目標



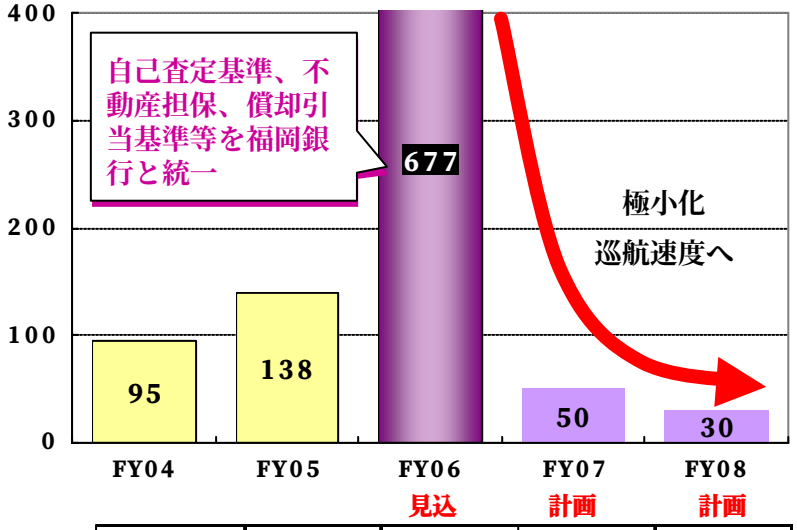
不良債権処理と信用コスト

■ 開示不良債権（単体）目標→09/3末：3%台（部分直接償却後）
■ 信用コストは、07年度50億円、08年度30億円まで低下。

【開示不良債権残高・比率　計画】



【信用コスト計画】



【要因別信用コスト】

	FY2005	FY2006	FY2007	FY2008
新規倒産	28	23	10	8
格付変動	104	246	25	15
回収	▲26	-	▲5	▲10
バルク損	-	34	15	15
担保下落	32	374	5	2
合計	138	677	50	30

本日の会社説明会に関するご照会先

株式会社　福岡銀行　総合企画部

- 電　話　　０９２－７２３－２６２２
- ＦＡＸ　　０９２－７２１－５７９８
- E-mail　　fukuoka-ir@fukuokabank.co.jp
- ＨＰ　　http://www.fukuokabank.co.jp
- 担当者　　横田、牛島、廣田、東、永吉

本日は、弊行会社説明会にご参加いただきましてありがとうございます。

本日配布いたしました資料に記述されている将来の業績予想等につきましては、経営環境の変化等に伴い、予想あるいは目標対比変化し得ることにご留意ください。